

令和2年 春の特別展

明治の華麗な名工の技

旧中越銀行本店

2020年 4/22(水) - 5/31(日)

砺波市立砺波郷土資料館

入場無料

富山県砺波市花園町1-78 TEL/0763-32-2339 FAX 0763-32-2436

【開館時間】午前9時～午後5時 【休館日】毎週月曜日・第3日曜日

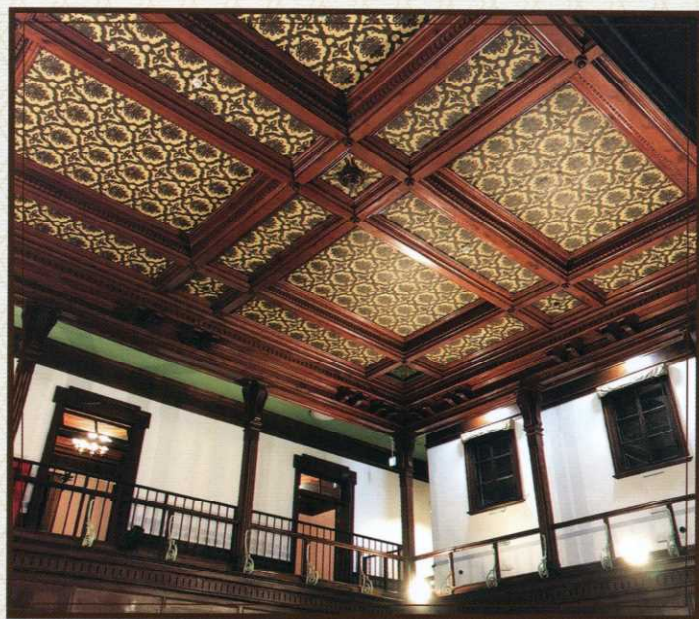
旧中越銀行本店

〈砺波市指定文化財〉

富山県を代表する 擬洋風建築

となみチューリップ公園内に建つ「旧中越銀行本店」は、明治42年(1909)に砺波を中心とする地元の名工たちによって建てられました。木造二階建土蔵造りを基本とする和風の外観は城郭を思わせる堂々とした迫力がありますが、一歩中に入ると一転して優美な洋風の世界が広がっています。

この和洋を兼ね備えた「擬洋風建築」は明治時代に日本の各地で建てられました。その中でも「入念に」「丁寧に」「嚴重に」「上等に」を信条として建てられた旧中越銀行本店は、その随所に名工たちの技を見ることができます。



天井を飾る「金唐革紙」(1階 営業室)



設計図と実際の内装(階段の手摺り)



頭取室前の螺旋階段



柱頭に施された装飾
(2階 廻り廊下)



設計図と実際の内装(営業室の天井)

和魂洋才の名工たち

砺波郷土資料館には東京の建築設計技師、長岡平三が描いた旧中越銀行本店の設計図が保存されています。この設計図は創建当初の姿を伝える貴重な資料ですが、実際の内装には設計図に描かれていない装飾(階段手摺りの親柱をはじめとする華麗な彫刻や、天井を彩る「金唐革紙」など)が多数見られます。

砺波の名工たちは長岡の設計をただ忠実に実現させるだけでなく、自らの技と意向を駆使することで洋風の内装を一段と華やかに仕上げたのです。

建物概要

- 構造: 木造二階建 土蔵造り
- 屋根: トラス小屋組使用の四方入母屋造り
- 施工: 明治42年7月
- 概括設計: 長岡平三
- 実施設計・工事監督: 藤井助之丞